



ことしはたつどし



ネジマキ草と銅の城

パウル・ビーヘル 作 野坂 悦子 訳 福音館書店 949-ビ

年老いたマンソレイン王は、ノウサギとふたりきりで銅の城で暮らしていました。せきこんでいる王が心配になったノウサギは、まじない師を城に呼びます。まじない師は、王の命は長くて一週間と言い、自分がネジマキ草という薬草を持ち帰るまで、毎日胸がわくわくする物語を聞かせてさしあげてほしいと言いました。それから城にはオオカミやリスやドラゴンなどが訪れて、王様に物語を語ります。

白いりゅう 黒いりゅう

賈 芝・孫 劍冰 編 君島 久子 訳 岩波書店 923-シ

むかし、「竜が淵」には、一匹きの黒いりゅうがすんでいました。黒いりゅうは鉄や銅でできたものがきらいで、鉄や銅のうつわで水をくみにきた人を淵のなかにひきずりこんで、たべてしまいます。だいくのヤン名人とその子のチーチンが淵ちかくを通りかかったとき、チーチンはのどがかわいていたので、銅の小なべを水のなかに入れました。そのとき、水のなかからりゅうの手があらわれ、なべとチーチンを淵のなかへひきずりこんでしまいました。

エルマーと16匹きのりゅう

ルース・スタイルス・ガネット さく わたなべ しげお やく 福音館書店 933-ガ

りゅうは、『そらいろこうげん』にあるじぶんのうちにむかって、ひとばんじゅうとびつづけました。だれかにみつからないように、どこかにおりてやすまないと、つかれてしまいます。りゅうは、じぶんがはいれるくらいのおおきさのどかんをみつけ、その中でいねむりはじめました。けれども、おひゃくしょうのワゴンさんはりゅうがとおりすぎたのをみて、おおいそぎでとびだしました。

カイとカイサのぼうけん

エルサ・バスコフ さく・え まつむら ゆうこ やく 福音館書店 E-ベ

むかし、もりのおくふかくに、いっぼんのかれきがたおれていて、カイとカイサというきょうだいごとびのってあそんでいました。あるひ、カイとカイサは、かれきにこわれたかさをしっかりとめ、かれきドラゴンにします。ふたりがたづなをとりにいへもどっているあいだ、いたずらトムテがこっそりかれきドラゴンにまほうをかけました。いえからもどってきたカイとカイサが、かれきドラゴンのせなかにとびのって、「さあ、しゅっぱつだ！」というと、そらにまいあがりました。

アーサー王のひひひひひまご

ケネス・クレイグル 作 津森 優子 訳 瑞雲舎 Eーク

アーサー^{おう}王のひひひひひまごのヘンリーは、6さいのたんじょうびに、ろばのナックルにまたがり、ひをふくドラゴンがすむというおかにかけていきました。ヘンリーがドラゴンをみつけてたたかおうとすると、ドラゴンはけむりのわっかをふきだしました。ちからをぶつけあってたたかいたいヘンリーは、たかいやまにすむひとつ^め目のおおおとこ、キュクロプスのところへいくことにします。

まゆとりゅう

富安 陽子 文 降矢 なな 絵 福音館書店 Eーフ

あるつめたいはるのあさ、ゆきでまっしろだったやまのてっぺんに、ちいさなりゅうのようなひとすじくろいじめんがかおをのぞかせています。やまんばかあさんとむすめのまゆは、おきゃくさまをむかえるじゅんびのために、ほらあなから、おさけのはいったでっかいきのたるをころがしていきました。ふたりがでっかいたるをはこびあげたとき、ふしぎなおとがきこえ、まっくろなくもがゆれました。そしてくものなかから、でっかいりゅうがかおをつきだしました。

のんきなりゅう

ケネス・グレアム 作 中川 千尋 訳 徳間書店 933ーグ

ひつじかいの男^{おとこ}の子^こは、丘^{おか}のほらあなにいるりゅうと友^{とも}だちになりました。けれどもりゅうがすみついたというわさがひろまり、村人^{むらびと}たちはおびえます。ある日^ひ、村^{むら}にりゅうたいじの騎士^{きし}、聖^{せい}ジョージがやってきます。男^{おとこ}の子^こは友^{とも}だちのりゅうをまもるため、聖^{せい}ジョージといっしょにりゅうのところへ行って、話^{はな}しあうことにしました。